



逆瀬台小学校区
10,000人のまちづくり

ゆずり葉だより

編集・発行/ゆずり葉コミュニティ 事務局・広報 <発行部数> 4,500部
<住所> 〒665-0024 宝塚市逆瀬台6丁目1番1号 宝塚市立逆瀬台小学校内
<Eメール> m@yuzuriha-c.web7.jp <連絡先> 中村 TEL72-5644
<掲示板> http://8507.teacup.com/yuzuriha/bbs/? (自由投稿版)
<ブログ> http://www.hnpo.comsapo.net/yuzuriha/
<ホームページ> http://yzrh.exblog.jp/ <TEL/FAX> 0797-73-8839

健康で
明るい
まちづくり



平成23年4月から始まる「第5次宝塚市総合計画」が決まりました

宝塚市は、昭和46年度(1971年度)から第1次総合計画をスタートさせ、以後10年ごとに、総合計画を策定し、豊かな自然や文化の特性を生かしたまちづくりが進められてきました。この間、「地域主権の時代」は、地方自治体から校区住民組織に対し、権限と財源の移譲が図られて、地域自治活動へと進展して行く。第5次総合計画は、宝塚市のまちづくり理念を目指して、6つの基本目標が掲げられている。この目標で逆瀬台小学校区の「まちづくり計画」について検証しました。

1 これからの都市経営

平成22年5月、宝塚市教育委員会から地域に対し、適正規模による校区再編成の提案があった。宝塚市の小学校は24校あるが、特に生徒数が急増傾向にある校区があり、緊急対策が必要としていた。従って、平成24年4月から再編したいと言う話であった。該当校区の合意形成や問題点の先延ばしが続く、生徒や地域に大変不幸な事態も生じる。校区問題を早く解決し、住み良いまちづくりの実現を図って行きたい。

2 安全・都市基盤

平成22年8月、宝塚市から逆瀬台1丁目界道沿いの市有地に、賃貸によるコンビニの新設提案があった。600坪を超える広大な駐車場は、不特定多数のためり場ともなり、治安・風紀上の問題など、当提案は住宅街で問題点が多い。コンビニ案を留保して、当会のある交流施設新設案を協議して行く。



3 健康・福祉

ゆずり葉コミュニティの掲げるまちづくりの基本目標は「自然を活かした健康長寿のまちづくり」であり、高齢者が何時までも健康で、介護が要らない暮らしを目標に、活動を活性化している。健康づくりの中核として「スポーツクラブ21ゆずり葉」がある。



平成22年10月31日(日)、兵庫県民会館で、「スポーツクラブ21ひょうご」全県交流事業『全県クラブサミット』が開催。宝塚市から24のクラブを代表して「スポーツクラブ21ゆずり葉」が出席した。【3面に関連記事】

「無縁死ゼロ」の逆瀬台地域づくりを

22年11月に実施した宝塚市社会福祉大会では、「無縁社会」をテーマに取り上げました。今、無縁が無縁を生み出すと言われるように、無縁は自ら縁を切ろうと思つていくわけではなく、人知れず問題を抱えながら、認知症や病気の理由により縁が切れてしまつたり、SOSを発信できなくなった。会社や家族以外の新たな縁を築けないことよって、必要な支援が受けられないという状況が様々な地域で起こっています。そんな中、逆瀬台地域では最近「人と人がつながる場所」としてサロン活動が活発になっていきます。以前4か所だったサロンは、現在8カ所に増えました(4面参照)。サロンとは住民自身が運営する次のような活動です。

- ①誰でも参加できる。
- ②地域の人歩いて行ける身近な場所で開催される。
- ③お茶を飲みながらのおしゃべりや、歌、体操、手芸などを楽しむ。
- ④仲間作り、情報交換の場。

2面につづく



宝塚市で高齢者の集い、ふれあいサロンが始まって10年が経った。平成22年11月9日(火)、逆瀬台小学校区の8か所のサロンが集まる交流会を開催した。活動者同士が、お互いに情報交換を行ってサロンの活動に活かせるヒントを身につけた。

4 教育・子ども・人権

未来を担う子どもたちの健全育成は家庭、学校、地域社会が一体となった体制づくりと子どもを守り、育てる行政施策が重要である。毎年恒例の子どもたちを中心とした、秋の「ゆずり葉まつり」は、6月から逆瀬台小学校ゆずり葉会、学校、地域社会が一同に会し、熱心に話合って準備し、開催される。



秋の「ゆずり葉まつり」で話合うPTC

幸せな人生と学力

光方丘自治会長 徳高宗雄
私は機会がある度に子供達に向かって「勉強すれば幸せになれるよ。」と言います。自分の子や孫には勿論のこと近隣の子供達にもそうした声をかけます。勉強と一口に言っても、いろいろな勉強があります。算盤の技能を高めるのも、漢字をしっかりと身につけるのも、読書を重ね読解力をつけるのも、それぞれ大切な学習です。そしてそれは、子供達の学習能力を活性化させ、学習への意欲を高めます。ある少女は算盤塾で学び、小学校5年生で暗算八段の段位をとりました。難しい特殊算「旅人算」「植木算」「鶴亀算」などの原理を自分で考え見つけ出す能力を発揮するようになりました。このように学習に精通することで、学習の範囲を広げ、学習への意欲を燃やします。それはスポーツにまで広げ、高度な体操の技を習得しようとさえします。そうした学習を重ねると様々な資格習得と結びつきますよ。となれば世の中の様々な分野で、人の為に尽くす機会を多く持てるに違いありません。しかし、以上述べたような学習をしようとする状況を損なうことがあるのが、今の一つの社会状況です。「いじめ」により生きる意欲を失われそうになったり、虐待によって心身が傷ついたり、時には犯罪に巻き込まれることがあって、おだやかに学習に打ち込むことが難しい状況が生じる心配があります。そこで大人の順番が来ます。自分と同じ地区に住む子供達を周りの大人が暖かく見守り、登下校に付き添ったりすることはどうでしょう。さらには、無料の寺小屋活動を展開し、子供達の学習の手助けがなければならないと心の底から思います。如何でしょうか。このような地域活動を展開してみませんか。

5 環境



フレミラ祭りで市長に説明
売布小学校出前講座

「ダンボールコンポスト」の紹介

宝塚市民環境大学で学んだ者達が、環境に貢献したいと「環学OB会」を結成し、自宅から出る生ごみで堆肥を作り、焼却費(宝塚市年間28億円)や二酸化炭素の削減を目指し、活動をしています。「ごみの山は宝の山」と「宝塚」を組合せて命名した「たから堆肥」の作り方を紹介します。このコンポストは、園芸店等で売られている「ビートモス」と「もみがらくん炭」を段ボールに入れ、生ごみを混ぜるだけです。温度を10度以上に保つと微生物が分解してくれて、3ヶ月ほどで堆肥になります。この方法は、わざわざ容器を買わなくても段ボールを利用して手軽に安価で、マンションでも出来、臭いも殆どないのが特徴です。当会では、公民館や小学校、コープなど延べ60回以上の出前講座を行い、草の根運動を展開しています。皆さんも是非、挑戦してみてください。(投稿:逆瀬台在住深田勝通) <作り方は2面につづく>

6 観光・文化・産業

当地区は、裏山を背景に自然豊かな閑静なニュータウンとなっている。現在、宝塚市一番の高齢化率35%を超えとなり、高齢者福祉の対策が最重要課題になっている。福祉事業として逆瀬台デイサービスセンター、宝塚エデンの園、宝塚栄光園、社協逆瀬台地区センターがある。地域住民により起業化されたNPO法人きらりがあり、地域課題の解決には、住民主体のNPOによる起業化が重要。最近では地域の超高齢化を見越し介護タクシー・訪問介護サービスを提供する新しい株式会社が生きている。



「ゆずり葉コミュニティルーム」で車椅子の人たちも参加して介護研修を行う福祉・介護をサポートする『NPO法人きらり』の人たち